

年 譜

大谷尊由 (號心齋)

- 一、生年月日 明治十九年八月十九日
- 一、得 度 同參拾壹年一月八日 (積徳院ト授與)
- 一、明治三十七年六月十日 日露戦役ニ際シ第三軍兵站監部附トシテ本願寺遼東半島臨時支部長ニ就任シ軍隊ノ慰問布教ニ従事ス
- 一、明治三十八年六月一日 日露戦役ノ功勞ニ依リ叙勳四等、授瑞宝章 (賞勳局)
- 一、明治三十八年十二月一日 本願寺清國開教総監ニ就任
- 一、明治四十年九月十日 海外宗教事情視察ノ爲左記ヘ渡航
 - 一、シンガポール
 - 二、バタビヤ
 - 三、サマラン
 - 四、スラバヤ
 - 五、バリ島
 - 六、マカツサル
 - 七、バンタ
 - 八、アンボイナ
 - 九、ワハイ
 - 十、クエサー
 - 十一、フアクフアク
 - 十二、サナナ
 - 十三、バンジエルマシ
 - 十四、サンダンカン
 - 十五、バンコク
 - 十六、コラト
 - 十七、プノンペン
 - 十八、サイゴン
 - 十九、ハイノ
 - 二十、マニラ
- 一、明治四十一年六月二十三日 本願寺執行長就任
- 一、明治四十二年二月十九日 本願寺韓國開教總監就任
- 一、明治四十三年五月二十四日 英國倫敦ヘ渡航
- 一、同 年七月十六日 歸朝
- 一、大正十年三月二十二日 本願寺派管長事務取扱就任 本願寺派住職事務取扱就任
- 一、大正十四年十月十日 米國合衆國加奈陀視察ノ爲渡航
- 一、大正十五年二月二十二日 歸朝
- 一、昭和二年十月二十二日 本願寺派管長事務取扱辞任
- 一、昭和三年四月四日 貴族院議員拜命
- 一、昭和三年四月三十日 叙勳三等、授旭日中綬章
- 一、昭和三年十月十日 貴族院議員トシテ御即位大禮ノ功勞ニ依リ、金杯壹個下賜アラセラル
- 一、昭和三年十一月十日 勅令第百八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授ケラル
- 一、昭和十二年六月四日 任拓務大臣
- 一、昭和十二年六月十五日 叙從三位
- 一、昭和十二年六月十五日 叙勳二等授旭日重光章
- 一、昭和十三年六月二十五日 依願免本役(拓務大臣)
- 一、昭和十三年七月十八日 内閣參議被仰付
- 一、昭和十三年十一月一日 北支開發株式會社總裁就任
- 一、昭和十四年七月四日 興亜委員會委員被仰付
- 一、昭和十四年八月一日 午後零時十分張家口ニ於テ示寂
- 一、昭和十四年八月一日 叙正三位(特旨ヲ以テ位一級ヲ被追陞)

- 一、 同八月五日 午後四時ヨリ北京總領事館、北支開發株式會社合同ノ下ニ北京大廟ニ於テ日華各要人等多數參列ノ下ニ嚴肅裡ニ同四十分密葬儀ヲ終ラレ、午後五時茶毘ニ附セラル。
- 一、 八月十二日 午後一時築地別院本堂ニ於テ本葬儀ヲ執行
葬儀委員長 近衛文麿公 同副委員長 太田内閣書記官長 本多執行長 神鞭開發副總裁會葬者無慮貳萬壹千名ヲ算シ盛儀ヲ極ム。
- 一、 畏クモ天皇陛下ニハ八月十二日午後一時築地別院ニ於テ故人ノ葬儀ヲ聞召サレ八月十一日午前十時勅使トシテ侍從小倉藏次氏ヲ築地別院ニ御差遣アラセラレ、喪主元氏ニ對シ
- 一、 御祭 壹封 幣帛 白絹五疋 御供物 八臺
- 一、 御花 壹對
右御下賜ノ趣傳達アリ、靈柩前ニ焼香退出セラル。
- 一、 皇后陛下ニハ八月十二日午前十時十分皇后宮事務官岡部長章氏ヲ、皇太后陛下ニハ同日午前十時二十分皇太后事務官西邑清氏ヲ御使トシテ御差遣わす、夫々御華壹對ヲ賜ヒ、靈柩前ニ焼香退出セラル。
- 一、 八月十二日午後一時東久邇宮ヲ始メ奉リ、山階.賀陽、朝香各宮家ヨリ御代香ヲ差遣ハサレ、御供物並ニ御花ヲ賜フ。
- 一、 昭和十五年十一月二十日北京西本願寺内ニ建テラレタル頌德碑ノ除幕式舉行セラル。

(昭和 15 年 12 月 30 日発行「国土莊嚴」興行書院ヨリ引用)